

6 「脱・駅袋」を実践するための要素と方針

アート・カルチャー

都市機能の集積やアート・カルチャー・ハブ/スポットの育成により国内外から人を呼び込む。



歩行者空間・ネットワーク

東西都市軸を強化し、歩行者中心の都市基盤を整備することにより、回遊性を向上する。



方針① アート・カルチャーの魅力で人を集める

取組1

多様な都市機能の集積と連携を図り、拠点性を高める

- (1) 多様な都市機能の集積と連携
- (2) アート・カルチャー・ハブ/スポットの育成

取組2

持続可能なアート・カルチャー活動の展開

- (1) まちなかのアート・カルチャーの体験・交流を促進
- (2) 誰もが活躍できるアート・カルチャー環境を充実
- (3) 多様な活動と連携した池袋ならではのコンテンツを提供

方針② 駅からまちへ人を広げ、まちの東西の回遊性を向上する

取組3

駅とまちが一体となった都市空間の創出

- (1) 新たな玄関口となる駅まち結節空間の構築
- (2) 駅と周辺地域・まちの東西をつなげる歩行者ネットワーク、滞留空間の整備

取組4

他地域とのアクセス性を高める交通結節機能の強化

- (1) 交通結節機能を高める交通施設の再編
- (2) 誰もが安全で円滑に移動できる道路空間等の再整備

みどり

歩きながら潤いを感じられる質の高いみどりを誘導し、快適で、四季の彩りで憩える空間を形成する。



防災・環境

大規模ターミナルとしての防災性の向上と環境への配慮により、安全・安心なまちづくりを行う。



方針③ みどりで回遊・滞在の質を高める

取組5

歩きながら潤いを感じられる質の高いみどりの整備

- (1) 東西都市軸などの地上部を中心としたみどりの配置
- (2) 公園周辺の空間の緑化
- (3) 駅まち結節空間と東西デッキの緑化

取組6

地域の人々に愛され親しまれるみどりを育てる

- (1) 特色あるみどりと憩いの場の創出
- (2) みどりの多様な機能を活用したグリーンインフラの推進
- (3) 地域と協働したみどりの維持管理

方針④ 持続可能な都市インフラでまちを支える

取組7

大規模ターミナルとしての防災性を高める

- (1) 安全な退避経路および帰宅困難者の安全確保
- (2) BCP^{*}(事業継続計画)強化への取組

取組8

環境に優しいまちづくりに取組む

- (1) 地区全体の総合的エネルギー効率向上の取組
- (2) ゼロカーボン^{*}の実現に向けた取組

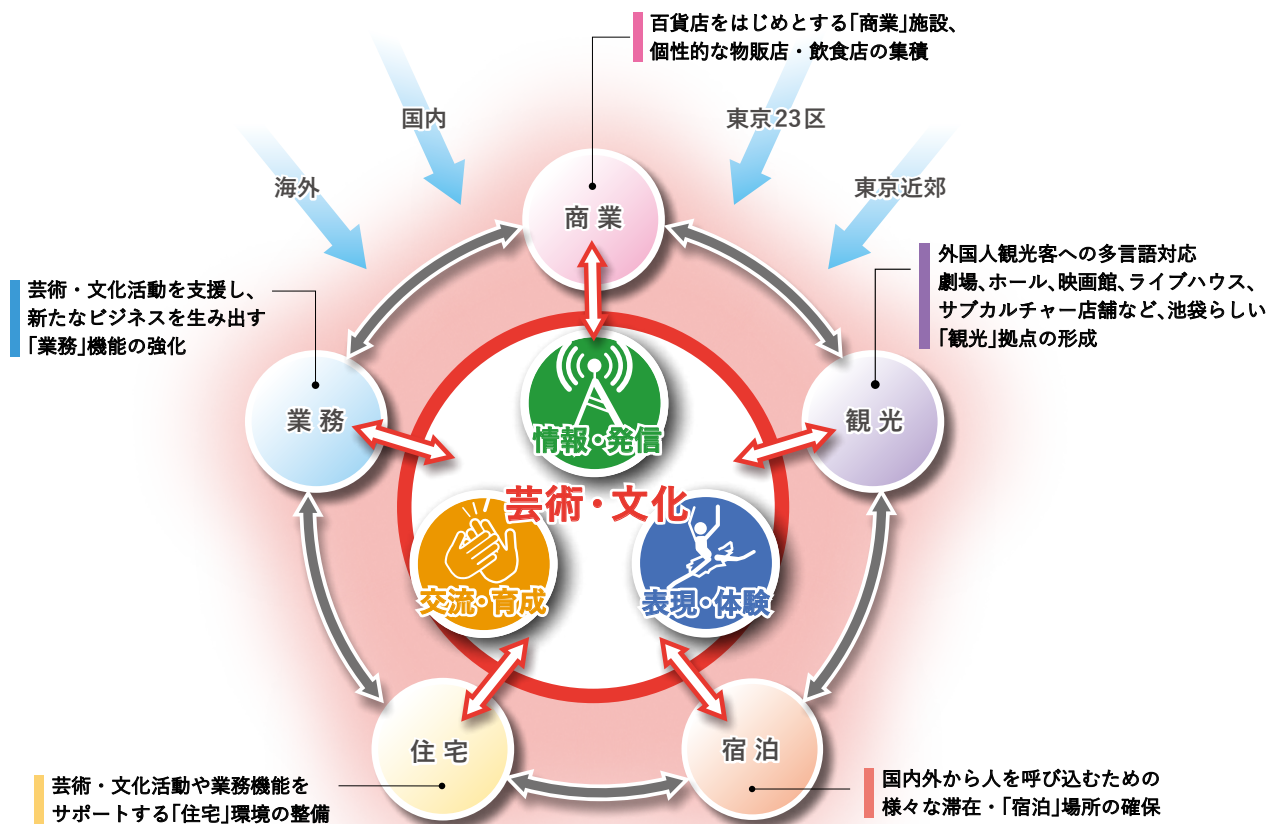
方針① アート・カルチャーの魅力で人を集める

取組 1 多様な都市機能の集積と連携を図り、拠点性を高める

(1) 多様な都市機能の集積と連携

- 劇場やホール、映画館、ライブハウス、サブカルチャーに関する店舗などの施設が集積するとともに、芸術・文化活動がまちなかで行われ、国際的で池袋らしい特色のある「観光」拠点を形成する。
- 百貨店や個人経営の店舗、個性的な物販店や飲食店など多様な「商業」と、新たなビジネスを生み出す「業務」などの施設が高度に集積することで、さらなるまちの魅力度向上を図る。
- アーティストの芸術・文化活動や業務機能をサポートする「住宅」を整備し、国内外の観光客を呼び込む滞在・「宿泊」場所を確保する。
- 国内外の多様な人材・企業を呼びこみ、芸術・文化活動が「観光」、「商業」、「業務」、「住宅」、「宿泊」などの機能と連携することで、「国際アート・カルチャー都市のメインステージ」の実現を推進する。

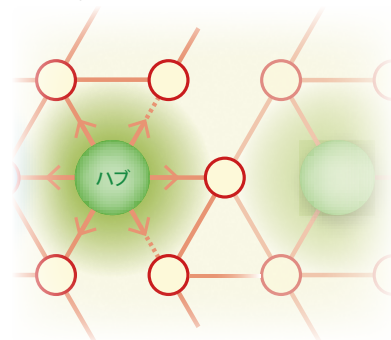
<国際アート・カルチャー都市のメインステージ実現イメージ>



(2) アート・カルチャー・ハブ/スポットの育成

- 4つの公園の個性や池袋駅東西駅前の特徴を生かしながら、周囲の民間施設との連携や機能集積を図り、アート・カルチャーの活動拠点であり、回遊の拠点ともなる、アート・カルチャー・ハブを育成する。
- アート・カルチャー・ハブを繋ぐ歩行者動線の結節点等においては、都市開発等の機会を捉え、アート・カルチャー・スポットの整備を誘導し、回遊動線のネットワーク化を進める。
- 民間開発においても、新たに創出する滞留空間等をアート・カルチャー・スポットとして整備し、まち全体の回遊性の向上、都市機能の向上に寄与するよう努める。

<ハブ/スポットのネットワーク化>



<池袋駅周辺地域のアート・カルチャー・ハブ/スポットの役割>

	アート・カルチャー・ハブ	アート・カルチャー・スポット
特徴	池袋駅周辺地域における アート・カルチャー活動の拠点 。 回遊の目的地 であるとともに、周辺の施設と連携した 回遊の拠点 となる。	アート・カルチャー・ハブを 補完する空間 であり回遊性の向上、都市機能の向上を図る。
場所	4つの公園 （池袋西口公園・中池袋公園・南池袋公園・としまみどりの防災公園）と、公園を核とした 周辺民間施設 。 池袋駅東西の駅前 （駅まち結節空間・駅前広場）を一体的にとらえた空間。 （他は必要に応じて新たに整備）	池袋駅周辺地域における主要な 歩行者ネットワーク 沿いなど。
育成主体	民間開発事業者と公共が連携して整備する。	民間都市開発事業に合わせて、事業者が整備。導入機能の内容に応じて、公共側でも必要な連携・支援を行う。
育成する機能 ◎ベース機能 ○サブ機能		
	<p> 誘導機能 : 周辺施設の案内誘導機能により、まちの回遊を促す</p> <p> 滞留機能 : 人々が滞留し、休憩や活動の場として利用する</p> <p> 移動機能 : 電車・バス・自動車・自転車等、交通モードを切り替える</p> <p> 発信・受信機能 : パフォーマンスやアート作品発表の場となる</p> <p> 交流機能 : 多様な人々が交流し、新たなアート・カルチャーを生み出す</p>	

① 駅を基点とした新たなアート・カルチャー・ハブの形成

- 東西都市軸を形成する駅の玄関口と駅前広場を一体的にとらえたアート・カルチャー・ハブを新たに形成する。（駅コア東・駅コア西）
- 駅コア東・駅コア西のアート・カルチャー・ハブは、国内外の来街者が訪れたい魅力的なコンテンツが展開されているとともに、駅周辺のアート・カルチャー活動や観光などに関する情報発信と誘導を図り、池袋の拠点性と駅からまちへの回遊性を高める。

② 既存のアート・カルチャー・ハブの機能強化・拡大

- 池袋西口公園を中心としたアート・カルチャー・ハブにおいては、東京芸術劇場などとともに、民間開発により整備される公共的空間や施設との連携により、ハイカルチャーな体験ができる劇場空間として価値を高め、池袋の中核的な活動の場を創出する。
- 池袋西口公園周辺の建物や広場、公共空間は夜間の照明計画等も含めて西口公園のグローバルリング^{*}と呼応したデザインとし、一体感のある劇場空間を形成する。
- 駅からグローバルリングや東京芸術劇場へ続く空間には視線の抜けを確保した大屋根広場を設け、連続性を感じられる空間を形成する。
- 大屋根広場は、東京芸術劇場やグローバルリングと連携したイベントや情報発信などが可能な空間とするため、大型ビジョン等を整備する。

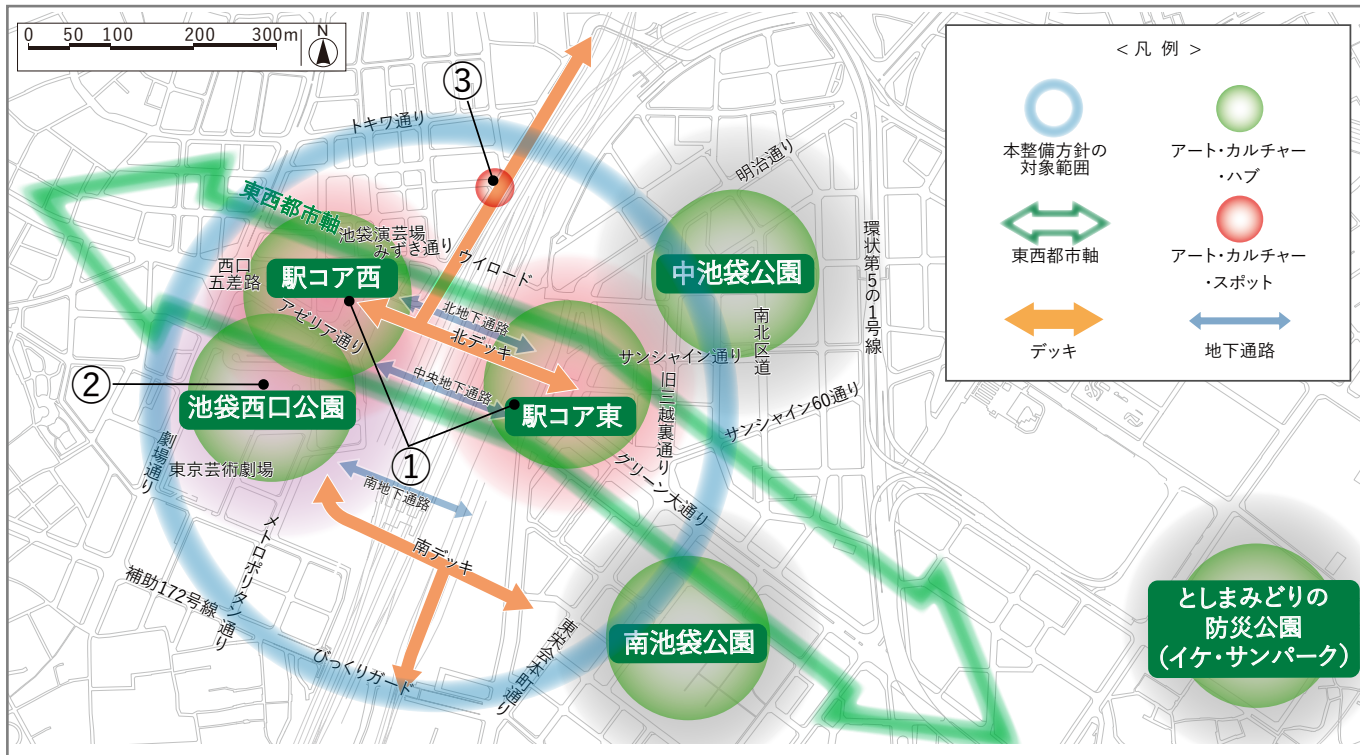
③ 新たなアート・カルチャー・スポットの形成

- 官民連携により、まちなかにアート・カルチャー・スポットを整備するとともに、安全で快適な歩行者空間を形成することで、駅周辺のまちの賑わいづくりと回遊性の向上を図る。
- 歩行者空間においては、公共的な工作物等（交番・地下施設出入口・換気塔・バス停など）にアートの要素を取り込むとともに、アート作品の設置やパフォーマンスの展開等により日常的にアートに触れられる空間を創出する。
- 東武東上線池袋駅の改良に併せて、線路上空を活用し、滞留・誘導・交流機能を備えた快適な広場空間を形成する。

<グローバルリングと呼応した一体感のある劇場空間イメージ>



<池袋駅コアエリアのアート・カルチャー・ハブ/スポット整備イメージ>



池袋駅コア周辺

～まちへ人を送り出す情報発信の場～

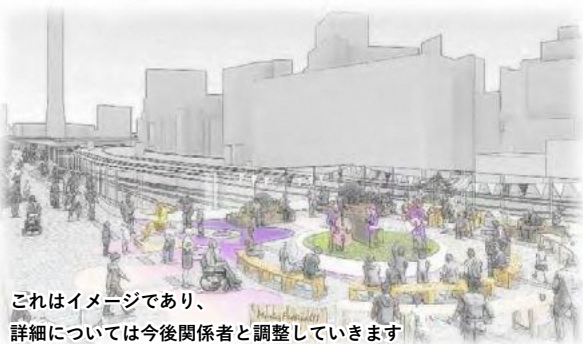
1. まちへ人を送り出す情報発信・誘導機能の強化
2. 駅直近でアート・カルチャーに触れられる空間
3. 駅東西の玄関口としての象徴性ある新たな顔

池袋西口公園周辺

～ハイカルチャーが楽しめる空間～

1. 東京芸術劇場と連携した、音楽・演劇・舞踏等の展開
2. アフター・ザ・シアター*を楽しめる飲食店、路面店
3. 国際交流に資するハイクラスホテル

<東武東上線上空広場整備イメージ>



これはイメージであり、
詳細については今後関係者と調整していきます



これはイメージであり、
詳細については今後関係者と調整していきます

取組 2 | 持続可能なアート・カルチャー活動の展開

(1) まちなかのアート・カルチャーの体験・交流を促進

- 池袋駅周辺のアート・カルチャーや観光等に関する情報が取得できる情報発信施設を整備するとともに、まちなかでアート・カルチャーが体験できる交流施設を整備する。
- 飲食施設や商業施設、宿泊施設等と連携して、アフター・ザ・シアターなど、まちなかでアート・カルチャーが体験できる機会を創出する。

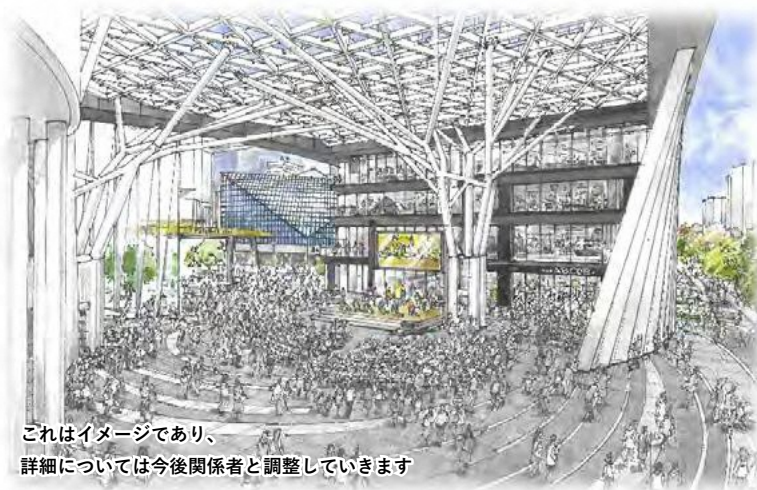
<アート・カルチャー体験施設イメージ>



(2) 誰もが活躍できるアート・カルチャー環境を充実

- 国際アート・カルチャー都市として、国内外のアーティストを受け入れる活動の場を整備するとともに、宿泊・居住環境の充実を図るなど、活動拠点として誘致を推進する。
- アーティスト等の育成・制作の場となる育成支援施設の整備を誘導するほか、アーティストと企業のマッチングによる活躍の場も創出する。

<アート・カルチャー活動拠点イメージ>



(3) 多様な活動と連携した池袋ならではのコンテンツを提供

- 地域に根付いたアート・カルチャー関連組織と連携して、伝統芸能、サブカルチャー・ハイカルチャーなど、多様なアート・カルチャーが融合した新たなコンテンツを提供する。
- 民間活力を導入したエリアマネジメント^{*}等の管理・運営により、魅力的なコンテンツを提供するとともに、国内外に向けて池袋ならではの魅力や情報のプロモーションを促進する。



Tokyo Music Evening Yube
(トウキョウ ミュージック イブニング ユーベ)



みんなの大道芸



ふくろ祭り / 東京よさこい



© 池袋ハロウィンコスプレフェス



IKEBUKURO LIVING LOOP
(イケブクロ リビング ループ)

方針② 駅からまちへ人を広げ、まちの東西の回遊性を向上する

取組3 駅とまちが一体となった都市空間の創出

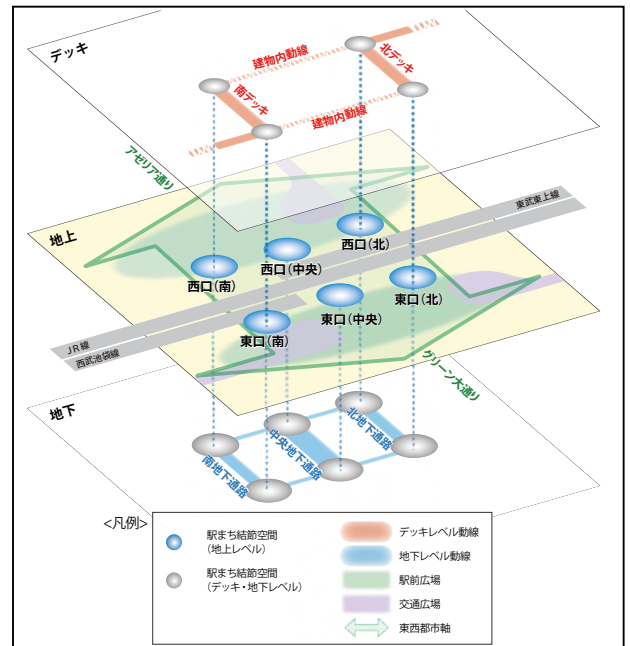
地上レベルを大切にしたい池袋らしいウォークアブルなまちづくりを推進するため、地上を歩行することが難しい駅部分に関しては、デッキと地下通路の歩行者動線を確保し、それらを駅まち結節空間で結ぶことにより、東西都市軸を形成するアゼリア通りとグリーン大通りへ駅からまちへ人を広げる。

(1) 新たな玄関口となる駅まち結節空間の構築

① 上下東西南北をつなぐ

- 北・中央・南の各東西通路や南北の動線に対して、デッキ・地上・地下をつなげ、バリアフリーに配慮した縦動線や分かりやすい出入口を整備し、まちへの回遊性を高める駅まち結節空間を整備する。
- 駅まち結節空間には、アトリウムやオープンスペース等を整備し、開放的でゆとりのある滞留空間を創出する。
- 西口においては、北デッキから駅前広場までを円滑につなぐ、縦動線を有するアトリウムを整備し、駅と北デッキの存在を認識しやすい顔づくりを行う。
- 東口においては、今後のまちづくりの動向に合わせて、北デッキから駅前広場まで連続性のある空間整備を目指す。

<池袋駅コアの動線イメージ>



<駅まち結節空間（西口）のアトリウムイメージ>



西口（北）の駅まち結節空間



西口（中央）の駅まち結節空間

② 大きな都市スケールに合った駅の顔づくり

- 東西都市軸に位置する駅の出入口は、開放的な空間として駅からまちを見た時にグリーン大通りやアゼリア通りなど周辺地域への視認性に配慮する。
- まちから駅を見た時に、象徴的で分かりやすい駅の顔づくりに取り組むとともに、建物ファサードなどは周辺建物等との調和を図るなど、池袋らしい個性が感じられる空間・景観を誘導する。

(2) 駅と周辺地域・まちの東西をつなげる歩行者ネットワーク、滞留空間の整備

① 歩行者ネットワークの整備

■東西デッキ

- 駅上空に新たにデッキを整備し、駅周辺開発とともにデッキネットワークの強化に取り組み、東西デッキを中心にまちの回遊性の向上を図る。
- 誰もが東西デッキを円滑に通行することができるよう、バリアフリーに配慮したデッキネットワークを整備する。
- 東西デッキは、駅前広場まで連続性のある空間整備を行うことで、駅東西の連絡機能を強化するとともに、地下通路の一部混雑緩和を図る。

■東武東上線上空広場・ウイロード

- 東武東上線上空広場やウイロードは、周辺道路とともに一体的な整備を図り、安全で快適な歩行者空間を確保する。
- 東武東上線上空広場は、北デッキとシームレス^{*}につながるとともに周辺地域の将来の開発動向を踏まえ、デッキレベルで駅と周辺のまちとをつなげる歩行者ネットワークを検討する。

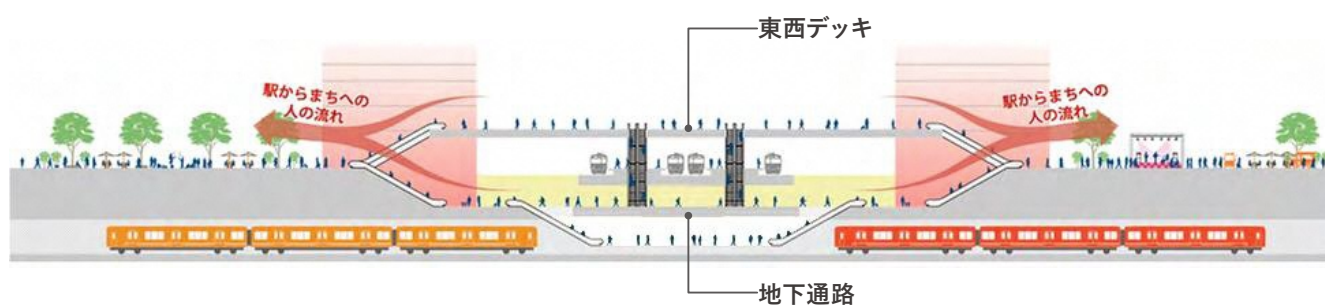
■地上レベルのネットワーク

- 地上レベル（グラウンドレベル）においては、駅周辺建物と連携しながら建物内通路等を整備し、通路に面して賑わい施設等を配置することで、まちの回遊性の向上を図る。

■地下通路（北・中央・南地下通路）

- 地下通路の一部拡幅や地下ネットワークの充実により、歩行者が交錯している現状を改善し、利便性の向上を図る。
- バリアフリー未対応や不十分な箇所について、既存施設内では対応が困難な場合は周辺開発と連携し、バリアフリーに対応した経路の整備を検討する。

<東西デッキ・地下通路断面イメージ>



■案内サイン

- 案内サインのわかりやすさを向上させ、すべての人にとって、駅での乗り換えや駅と周辺施設とのスムーズな移動を誘導する。

② 滞留空間の整備

- 駅前広場に集まる多くの来街者を受け止める滞留空間や、移動制約者を含めた誰もが移動しやすい環境を整備するため、駅前の広場空間を拡充する。
- 駅前交通施設の集約によるアゼリア通り(駅前～西口五差路交差点)の広場化や、みずき通りの歩行者空間化、西口五差路交差点の十字交差点化による歩行者空間の拡充などにより、駅前にウォークラブルな空間の拡大を図る。

※みずき通りについては、北側市街地のまちづくりの動向に応じて、段階的に歩行者空間化を目指していく。

- ウォークラブルな空間が拡大する駅前の周辺建物等において、まちの魅力度向上や賑わいの創出を目的として情報発信・誘導機能の充実を図る場合は、良好な景観形成に寄与する計画とする。

<西口歩行者空間の拡大イメージ>



これはイメージであり、
詳細については今後関係者と調整していきます

アゼリア通りの広場化



これはイメージであり、
詳細については今後関係者と調整していきます

みずき通りの歩行者空間化

- 明治通りのクルドサク化と併せたグリーン大通り(駅前～東口五差路交差点)の広場化により、駅前にウォークラブルな空間の拡大を図る。



これはイメージであり、
詳細については今後関係者と調整していきます

グリーン大通りの広場化

- 駅利用者などの主要な歩行者動線となるデッキレベルでは、安全で快適な歩行者空間を確保するとともに、駅周辺建物と連携し、居心地が良く誰もが利用できる空間やアート・カルチャーの情報発信施設等を誘導する。

<歩行者空間イメージ>



- 駅前広場や歩道、建物低層部等が一体となり、ヒューマンスケールを意識した居心地の良い空間を創出し、多様な活動や交流が生まれる空間づくりを行う。

<ヒューマンスケールを意識した空間イメージ>



- 歩行者利便増進道路（ほこみち）^{*}制度などを活用して、賑わいの空間や、歩行者が安全・快適に通行し滞留できる空間を構築する。
- 官民連携によるまちの魅力度向上や賑わいの創出を目指し、道路や公園等の公共空間と民間開発の空地等の一体的利活用を行う。

<道路空間活用イメージ>



人中心の空間として再生した、まちのメインストリート

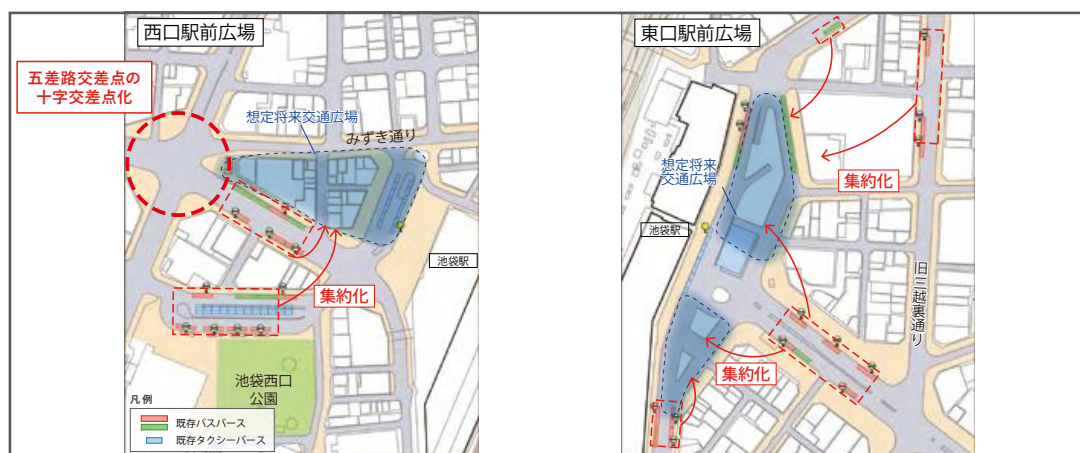
出典：歩行者利便増進道路（ほこみち）の普及展開に向けて / 国土交通省

取組 4 他地域とのアクセス性を高める交通結節機能の強化

(1) 交通結節機能をもつ交通施設の再編

- 分散している駅前交通施設の再編を行い、歩行者空間を拡大し歩きやすくするとともに、バスやタクシー等の乗降場の集約化を行うことで、利用しやすく機能的な駅前広場に再整備し、交通結節機能の向上を図る。
- 西口五差路交差点の十字交差点化と、みずき通りの歩行者空間の拡大等により、円滑な車両交通処理と周辺市街地への歩行者のアクセス利便性を向上する。
- イケバスの機能拡大や次世代モビリティ等の導入により、さらなるまちの回遊性の向上を図る。
- 観光用の貸切バス乗降施設の導入により、路上駐車を解消し、良好な交通環境を創出する。

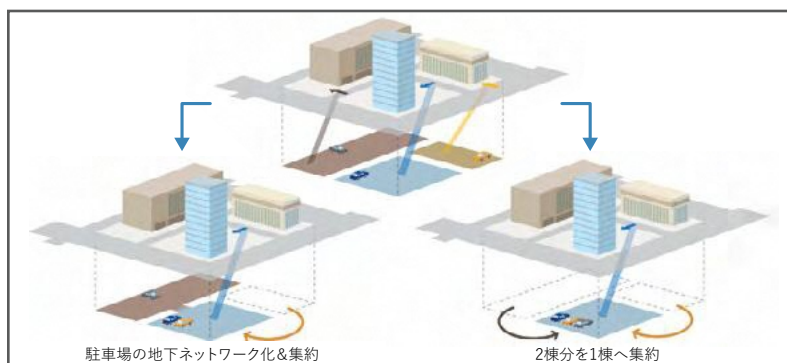
<駅前広場再編イメージ>



(2) 誰もが安全で円滑に移動できる道路空間等の再整備

- 駐車場は、周辺施設の荷さばき等の車両と歩行者の交錯に配慮した配置とすることで、安全・安心な歩行者空間を確保し、自動二輪車等の多様なニーズへも対応する。
- 駅・商業・業務等に必要な物流機能を確保した上で、周辺建物との駐車場の地下ネットワーク化や集約化を行うことで、利便性の向上や周辺交通への負担軽減を図る。
- 移動制約者への配慮を目的として、エレベーターの整備や段差解消によるバリアフリー化を図り、動線も確保した上で、誰もが利用しやすい駐車場を駅至近に整備する。
- 様々な配送・物流ニーズに対応するべく、運用ルールなども含め、荷さばき利用者の利便性に配慮した共同荷さばき機能の導入により、周辺エリアにおける路上荷さばきの解消を図る。

<駐車場集約・ネットワークイメージ>



出典：池袋地区駐車場地域ルール運用マニュアル(令和2年)

方針③ みどりで回遊・滞在の質を高める

取組 5 | 歩きながら潤いを感じられる質の高いみどりの整備

(1) 東西都市軸などの地上部を中心としたみどりの配置

- 東西都市軸を形成するグリーン大通りやアゼリア通りは「みどりの骨格軸^{*}」として、街路樹を充実させるとともに、軸に面する民間敷地・建築物上の緑化を積極的に誘導する。
- 駅前広場などの地上部を中心として、駅の東西でみどりを結び、歩きながら潤いを感じられる質の高いみどりの配置を行う。

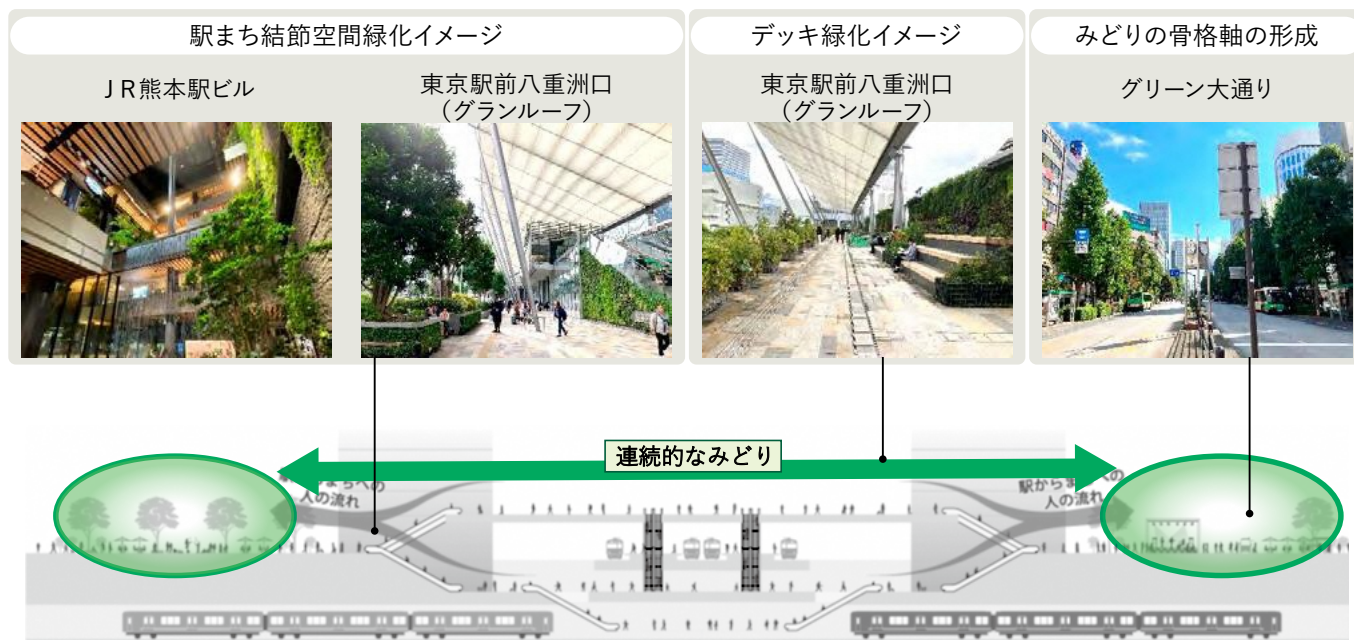
(2) 公園周辺の空間の緑化

- アート・カルチャー・ハブを形成する池袋西口公園周辺では、西側市街地へとみどりをつなげ、四季の彩りの中で憩える緑豊かな空間を形成する。

(3) 駅まち結節空間と東西デッキの緑化

- 歩きながらみどりの連続性を感じられるよう、駅まち結節空間と東西デッキを緑化し、国内外の来街者を迎えるターミナルとして、彩りや潤いのある美しいみどりを整備する。

<みどりの整備イメージ>



取組 6 地域の人々に愛され親しまれるみどりを育てる

(1) 特色あるみどりと憩いの場の創出

- 駅周辺に居心地が良い緑化空間を形成するため、特色あるみどりと憩いの場を創出する。
- 特色あるみどりと憩いの場では、多様な人々が交流し、モザイクカルチャー等のみどりの作品を展示するなど、みどりでアート・カルチャー活動を支える。

<西口駅前のモザイクカルチャー>



(2) みどりの多様な機能を活用したグリーンインフラの推進

- アート・カルチャー・ハブ/スポットにおいて、多様な生物が生息・生育するみどりの充実や暑さ対策などグリーンインフラの効果を高める取組を推進することで、気温上昇の抑制等を図る。
- 直接的な恩恵だけでなく、緑化とともに雨水浸透を促進することで、都市型水害の防止に植物がもつ多様な機能を活用する。

(3) 地域と協働したみどりの維持管理

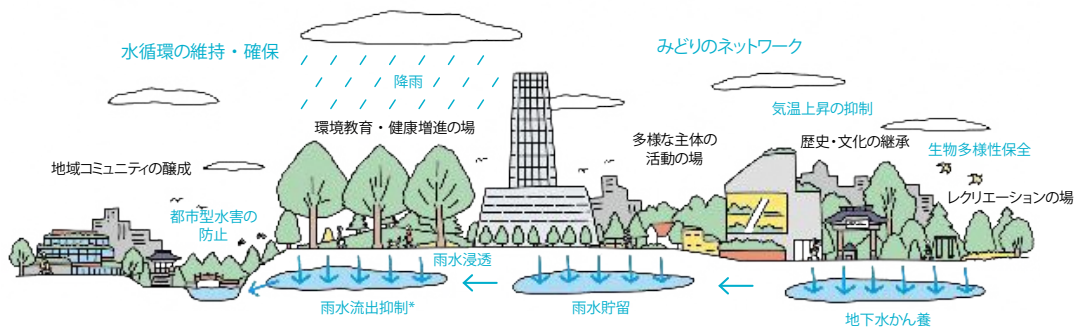
- アート・カルチャー・ハブ/スポットが地域のにぎわい拠点となるよう、地域のみどり資源の維持管理における住民参加の仕組みづくりやボランティアの活用、公民連携による運営など、地域の実情に合ったみどりの管理を検討・推進する。
- 地域ごとに複数ある公園の利用状況を踏まえ、公園の利活用や再整備を区民・事業者・学生などが共に考える取組を推進する。

<グリーンインフラとは>

「グリーンインフラ」とは、グリーンインフラストラクチャーの略称です。自然環境が有する機能を、社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方で、みどりと水のネットワークの形成や、みどりの持つ生物の生息・生育の場の提供、

良好な景観形成、気温上昇の抑制、自然とのふれあいや活動の場の提供等の多様な機能を活用して、豊かな生活空間を形成し、持続可能で魅力ある国づくりや地域づくりを進める取組です。

グリーンインフラのイメージ



出典：豊島区みどりの基本計画（令和5年）

方針④ 持続可能な都市インフラでまちを支える

取組 7 大規模ターミナルとしての防災性を高める

(1) 安全な退避経路および帰宅困難者の安全確保

① 一時待機場所等への安全な退避経路の確保

- 駅上空のデッキ整備による一時待機場所等への退避経路の新設に加え、既存の退避経路である地下通路の安全性を向上させる。
- 施設管理者間で災害時の施設対策・情報共有・避難誘導等の連携を図り、ターミナルの防災性を向上させる。また、ユニバーサルデザイン^{*}に配慮した、誰にとっても安全でわかりやすいターミナルを整備する。

② 帰宅困難者支援機能の整備

- 駅周辺で一時待機場所、一時滞在施設、備蓄倉庫を確保する。
- 大型ビジョン・デジタルサイネージ等を活用し、駅周辺で情報発信と避難誘導を強化する。
- 帰宅困難者に対し、一時滞在施設の開設・混雑状況等をSNSアプリを通じて発信するなど、デジタルコンテンツを活用した帰宅困難者支援体制を整備する。

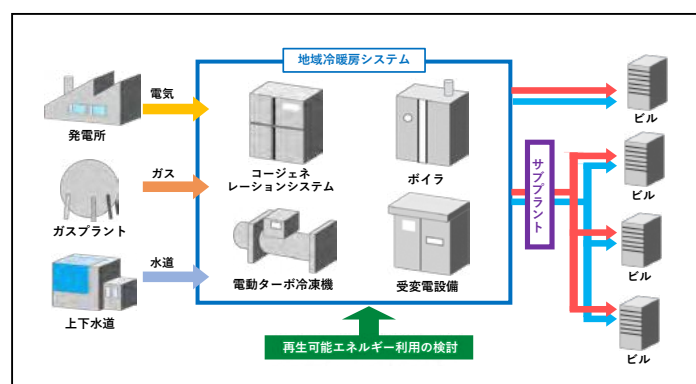
(2) BCP（事業継続計画）強化への取組

- 非常用発電機やコージェネレーションシステム^{*}等の自立性の高いエネルギーシステムの導入の促進による災害時のエネルギー確保等、防災対応力を強化する。

取組 8 環境に優しいまちづくりに取組む

(1) 地区全体の総合的エネルギー効率向上の取組

- 都市開発事業等において、地域冷暖房施設^{*}への接続やサブプラント^{*}の設置、コージェネレーションシステム・再生可能エネルギー^{*}の利用など、平常時のエネルギー利用の効率化に取組む。



(2) ゼロカーボンの実現に向けた取組

- 2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするゼロカーボンの実現に向けて、ZEB/ZEH^{*}(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル/ハウス)を標準化し、再生可能エネルギー由来の電力使用や低炭素資材の活用などに取組む。